

Go-Ahead

1

10 年 研 ・ 開 講 式 アンケートの感想から

自分が受講する研修のほとんど全てが、いわゆる実践に直結する内容(指導方法等)だったので、教師としてのあり方について振り返り改めて考える貴重な時間となりました。この 10 年目を機に、自分自身が学校でどのような立場で、分野で役割を担っていくのか、またそのために研修を積んでいくのか考えていきたいと思います。

自分との対話、自分のことが分かるということが大事とおっしゃっていましたが、日々の忙しさにかまけてそういうことを考えることもしていませんでした。自分自身「逃げない力」だけはあるのではないかと思います、10 年目を迎えさらなる人間力と人間性を磨いていかないといけないなあと思いました。鎌田先生の個人的なエピソードも興味深かったです。

貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。初心に戻って研修を受けることができました。「自分のことを分かろうとしないで、人のことを分かろうなんて無理」という言葉が一番心に残りました。確かに…と私も思いました。自分を見つめるっていうことはとても勇気があることだと思うし、自分の弱いところを受け入れることだと思います。でも、それは大事なことだなと思います。今日、お話を聞きながら自分のこととして置き換えて考えることができました。

お話を聞きながら、クラスの気になる子のことを思いうかべていました。今日あの子のつらさや悲しさをちゃんと受けとめてあげきれていなかったなあ。あの子のさびしい気持ちにも返してあげきれていなかったなあをつくづく考えさせられました。子どもたちのつらさ、かなしさ、さびしさをわかっているような気でいたけれど、そうではなかったんだと気がつかされました。あわただしい毎日の中で、今日少しだけですが、みつめ直すことができました。これからも自分のことを分かっているいきながら子どもをわかることにつなげていけたらと思いました。

「わかる」ことの意味を考えさせられました。

自分のこと、目の前のこと…。毎日に追われている中で、しっかり考えないといけないとおもいました。学校に来て、勉強がわからない、つらさ、かなしさ、さびしさのお話が心に残りました。ありがとうございました。

今年度の 10 年経験者研修の開講式を 5 月 8 日、15 日に 2 班に分けて行いました。

今年度この研修を受講されるのは、小学校教諭 62 名、中学校教諭 27 名、養護教諭 1 名で合わせて 90 名になります。豊能地区でも年々対象となる先生方も増えていきます。

開講式では、奈良学園大学、人間教育学部 鎌田首治朗教授をお迎えし、ご講義いただきました。鎌田先生とは今年で 3 年目のお付き合いとなり、毎年、先生の実践をもとにした熱のこもったお話をいただいています。

10 年目という節目を…と言っても、受講されている先生方の経験も様々。学校での役割、得意技、子育てなどで現場を離れていた方、とても多様です。そんな先生方の再開の場として、また、新しい出会いの場として役立てていただき、これからのキャリアに役立つ研修であってほしいと願っています。

全 6 回の共通研修は、先生方への豊能地区の願いや期待を形にしたものです。

開講式では、“やり方”ではなく“あり方”について、鎌田先生にお話いただきました。

明日に困り、より具体を求めている方には今回の内容はマッチしなかったかもしれません。しかし多くの先生方が、この講義によって、いったん立ち止まり、現在の自分自身と対話するきっかけにいただけたのではないかと思います。事後の感想を拝見しながら感動し、身が引き締まる思いがしました。

共通研修の他に、市町ではより現場に即した研修が企画されています。また、選択研修で、みなさんの『こだわり』に寄り添うことができればと考えています。

ぜひ、自分のテーマにこだわってこの“節目”を過ごしていただければと思います。